

令和8年2月6日(金) 実施

防災行政無線を用いた情報伝達訓練



地震・津波や武力攻撃などの発生に備え、全国瞬時警報システム（J-アラート）を用いて送られてくる国からの緊急情報を、さまざまな情報伝達手段で確実に町民の皆さんへお伝えするため、情報伝達訓練を実施します。※中止となる場合があります。

訓練で行う情報伝達試験放送

▶日 時 2月6日(金) 11時頃

▶方 法 町内に設置してある防災行政無線から定時放送と同程度の音量で一斉に放送

▶問合せ 総務課 ☎2111

▶内 容

- ①「これはJ-アラートのテストです」×3
- ②「こちらは、ぼうさい こうざき です」
- ③防災行政無線チャイム

※神崎町以外の地域でも、全国的に様々な情報伝達手段で試験が実施されます。

合併70周年記念 昭和100年で振り返る神崎今昔／ 昭和・令和のオリンピック 聖火リレー

昭和39年（1964年）、東京オリンピックが開催され、日本中が大きな感動と熱気に包まれました。日本各地がオリンピックムードに沸く中、神崎町においても聖火リレーが行われ、町内から選ばれた聖火ランナーが、希望と平和への思いを込めて町内を駆け抜けました。その57年後の令和3年（2021年）には、再び東京を舞台にオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。コロナの流行を受け、幕張メッセで行われた点火セレモニーには、町内在住の毛内颯輝さんが参加しました。



▲昭和39年聖火リレー（大貫地区三叉路にて）



▲令和3年オリンピック聖火リレー点火セレモニー（幕張メッセ）

～神崎歴史巡り～

平安・南北朝の仏教文化 神宮寺文書

神宮寺は、明治維新後の神仏分離以前には神崎神社の別当寺として、神社と一体となり地域の信仰を支えてきました。中世、船運の要所として栄えた神崎を中心に、周辺地域からも厚い信仰を集めていました。

神宮寺に伝わる「大般若波羅蜜多經」は、三蔵法師によって漢訳され、日本に伝えられた全600巻からなる仏教經典です。「災いを除き、福を招く」經典として、古くから各地で大切に伝えられてきました。

この經典は現在540巻が残されており、もとは現在の佐倉市・八街市にまたがる白井庄六所宮に奉納されたものが、大永8年（1528）に神宮寺へ移されたと伝えられています。平安時代から南北朝時代にかけての写經や一部木版印刷を含む本資料は、当時の仏教活動を知ることのできる貴重な文化財です。



▲神宮寺文書所蔵 神宮寺
画像提供 千葉県立中央博物館